

# 政府関係機関の地方移転に関する提案

## 提案道府県と府省庁との意見交換

### 【佐賀県】

#### 資料目次

コスメティック構想について . . . . .	1
県内の製薬業の現状について . . . . .	8

# コスメティック構想のご紹介

佐賀県

## 1 コスメティック構想について

### ✿ コスメティック構想

唐津市・玄海町を中心とした佐賀県、北部九州一帯に「美と健康」に関するコスメティック産業を集積、将来に亘りアジアの成長市場に展開する、日本版コスメティッククラスターを創出する

#### コスメティック構想 4つの柱（取り組み）

アジアのコスメティック・ハブへ  
《国際取引の促進～市場が広がる》

- ◎フランス企業とのビジネスマッチング
- ◎アジア市場への展開拠点

コスメ産業クラスターへ  
《関連産業の集積～企業が集まる》

- ◎**コスメ関連産業の誘致（国内/海外）**
- ◎企業の新規参入促進、育成強化

天然由来原料の供給基地へ  
《農林水産業の参入～地域資源を資本に》

- ◎原材料の探求、栽培技術の確立
- ◎生産者・加工業者の育成、誘致

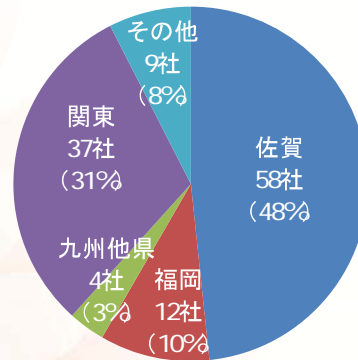
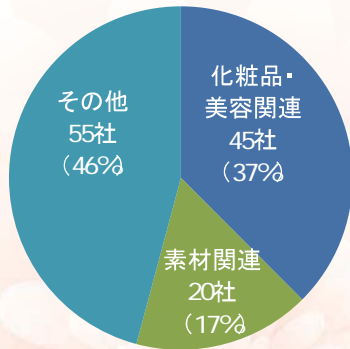
国際的コスメシティへ  
《環境の整備～コスメのまち創り》

- ◎コスメのまち環境整備（**立地環境**）
- ◎コスメ人材の育成

✿ コスメティック構想を推進する中核組織（平成25年11月11日設立）

※平成27年4月1日より一般社団法人化

正会員数 120社（化粧品製造、OEM、原料、容器、検査分析、流通・小売等）  
業種別内訳 エリア別内訳（平成27年8月現在）



支援会員 17機関・団体（平成27年8月現在）

内訳 8大学（佐賀大学、九州大学、西九州大学、長崎国際大学、別府大学、福岡大学、九州工業大学、信州大学）

6機関・団体（唐津商工会議所、唐津東商工会、唐津上場商工会、唐津農業協同組合、日本化粧品検定協会、佐賀県地域産業支援センター）

3行政（唐津市、玄海町、佐賀県）

（参考） コスメティック構想と  
JCC設立の背景①

（1）世界最大級の化粧品産業集積地とのビジネス交流から発展

❖ 佐賀県内企業とのビジネス交流が契機に

フランス・コスメティックバレー（フランス政府認定産業クラスター）の企業と唐津市内の企業とのビジネス交流が契機

❖ コスメティックバレーと佐賀県唐津市が平成25年4月に協力連携協定を締結

❖ 化粧品関係のビジネス交流について合意（平成25年10月）

佐賀県知事がユール・エ・ロワール県議会議長、コスメティックバレー関係者と会談



❖ JCCの設立へ（平成25年11月）

初代会長にコスメティックバレーのアルバン・ミュラー名誉会長が就任

フランス・コスメティックバレーとJCCが連携し、フランスのブランド力と日本の技術力のコラボレーションにより、アジア市場の開拓に取り組む

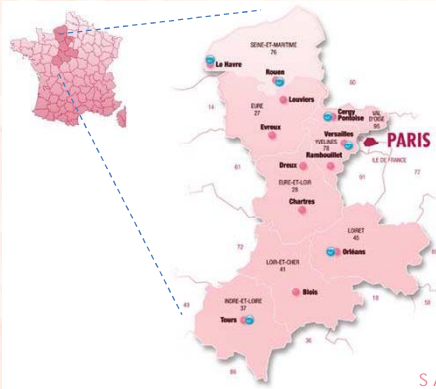
## 世界最大級の化粧品産業集積地域

- フランス中部シャルトルを中心に半径約150km圏内
- 800企業が集積
- 70,000名の雇用創出
- 180億€の売上  
(製品出荷額2兆3400億円)
- 大学7校、200の研究機関
- 8,000名の研究者
- 94の研究開発プロジェクト



設立 1994年

- 会長 ●初代  
ジャン・ポール・گران  
(グラン)
- 二代  
アルバン・ミュラー
- 三代  
アントワン・ジャメ  
(EIAネー・ルグイト)



### 主な活動

- ・ 企業・研究所視察
- ・ テーマ毎の会議・協議会
- ・ 大学や研究機関での共同研究開発プロジェクト
- ・ ビジネスマッチング
- ・ 展示会開催

SAGA PREFECTURAL GOVERNMENT 04

## (参考) コスメティック構想と JCC設立の背景②

### (2) 佐賀県唐津地域のポテンシャル (潜在的な力・特長)

#### ❖ 成長著しいアジア市場に近い

国際物流の重要拠点である国際空港や国際ハブ港湾等に近接。

#### ❖ 唐津市にコスメ産業のミニクラスター (産業集積) がある

すでに、化粧品製造企業、分析企業、物流企業がビジネスを展開している。



玄海町 薬用植物栽培研究所



甘草(カンゾウ)

#### ❖ 佐賀県玄海町の薬用植物栽培研究所

化粧品・医薬品の原料として国内生産が課題となっている甘草(カンゾウ)を始めとした各種薬用植物の栽培を研究(九州大学等との共同研究)。

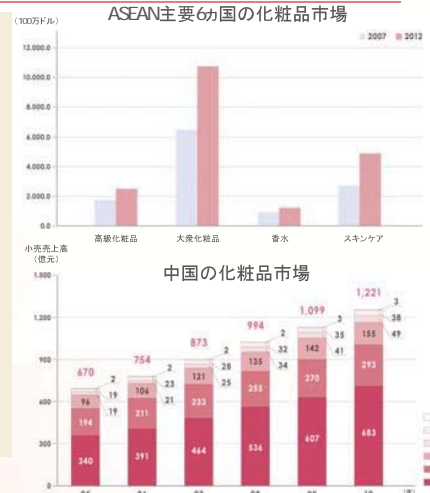
#### ❖ 豊かな自然環境 (玄界灘、虹の松原等)

化粧品のブランドイメージを高める要素の一つ

SAGA PREFECTURAL GOVERNMENT 05

(3) 化粧品市場の動向 → 国内市場から海外(アジア)市場へ

- ❖ **日本の化粧品市場、近年は微減傾向**
  - ・日本の化粧品市場は約2兆3千億円（民間シンカク調べ）
  - ・近年は微減傾向で推移
  - ・化粧人口の減少に伴い、今後も市場は縮小するとみられている。
- ❖ **ASEAN・中国等のアジア市場の急激な成長**
  - ・年平均2桁成長が続いている。
  - ・このまま推移すれば、世界最大の市場に成長すると見込まれている。
- ❖ **化粧品産業は、製造業平均の約2倍の高付加価値産業**
  - ・国内での生産、雇用の創出が可能な産業である。



1	フランス	6	スペイン
2	ドイツ	7	ベルギー
3	アメリカ	8	シンガポール
4	イギリス	9	ポーランド
5	イタリア	10	中国
		14	<b>日本</b>

- ❖ **日本の化粧品は、国際的にも高く評価**
  - ・安全・安心で高品質であること
  - ・製造技術、有効性の分析評価、素材開発力に優れていること等
- ❖ **ASEAN・中国等のアジア市場では、日本が得意とするスキンケア・美白などの基礎化粧品のニーズが高い。**

3 天然由来原料の供給地へ

アルバン・ミュラー・インターナショナル・アジアの設立

平成27年6月2日、フランスの化粧品原料会社であるアルバン・ミュラー・インターナショナルと、化粧品原料商社であるマツモト交商（JCC会員）が、唐津市内に化粧品原料開発を行う合併企業を設立することで合意。九州の農産物から抽出した天然エキスを使った化粧品原料の商品化を目指



6月3日佐賀新聞掲載記事  
合併会社の設立合意



## 4 対日投資の促進へ

唐津市海外コスメ企業投資促進事業（H27年度）

Beauté et santé  
COSMETIC PROJECT

### 目的・・・集積するKARATSU

唐津コスメティック構想が目指す国際的コスメティッククラスター（産業集積地域）の実現に向け、主に欧州企業の対唐津投資の誘致に挑戦する。

（目標）

- ・海外企業を唐津市へ誘致
- ・海外企業と地元企業との事業提携

### KARATSUのポテンシャル

ジャパン・コスメティックセンターの拠点

国内でビジネスコストが低い

環境良好で福岡都市圏に隣接

アジア市場に地理的に近接

### 目指す姿

海外企業のアジア支社や工場等が市内に進出、地元企業とのコラボビジネスが開発。

## 事業概要

### 実施体制

主要業務は**専門機関（欧州各国にパイプを持つシンクタンク）**に委託。

事業統括・予算管理を担う唐津市と佐賀県、JETROと専門機関が連携した、**プロジェクト・チーム**を組成、事業を推進。

### 事業展開

- ①**プロモーションツール制作**  
・動画、パンフ、外国語プレゼン資料等
- ②**海外企業意向調査**  
・**欧州3カ国、概ね150社以上**へ聴取り調査を実施  
・支援制度や環境、地元企業・機能等をPR
- ③**現地プロモーション活動（10月）**  
・関心を示した企業へ、あらためて**訪問営業を実施**（概ね3カ国、計30社程度を想定）
- ④**海外企業の来日招聘（1～2月）**  
・進出意向を持つ企業**3社以上を招聘**  
・現地視察、商談会等  
・日本への**既進出企業の2次投資**視察も推進

### 重要業績評価指数(KPI)

- ①訪問営業対象企業 **30社以上**
- ②海外企業の来日招聘 **3企業以上**

### 事業費内訳

- ①委託料  
45,360千円
- ②旅費等  
2,828千円

# 唐津コスメティック構想における優位性

産学官連携組織「ジャパン・コスメティックセンター（JCC）」

## 研究能力の確保・向上

### ◆優秀な研究人材の確保、優れた研究環境の確保

- ①大学連携  
7つの大学との連携、さらに九州を中心に連携大学を拡大予定  
(佐賀大学、西九州大学、九州大学、福岡大学、長崎国際大学、別府大学、信州大学)
- ②美容健康産業界との連携  
130社の会員企業とのコラボレーション、さらに国内外の企業との連携拡大  
企業R&D部門との連携
- ③国際連携  
フランス・コスメティックバレー加盟の大学等、国際的な研究者交流の促進
- ④人材育成  
美容健康産業に資する人材育成プログラムの計画（佐賀大学等）

### ◆研究資金の確保、研究機関との連携

- ①企業と金融機関との連携  
新素材開発ファンド（仮）などの造成
- ②大学等コンソーシアム形成による共同研究体制  
共同研究、委託研究のコーディネーション（企業資金等）
- ③地域資源開発としての地元自治体等からの支援

## 研究成果活用の確保・向上

### ◆実績の紹介

研究開発の推進やシーズの事業化に係るマネジメントについてノウハウを蓄積している。

- ①研究開発支援体制の構築  
JCCの設立により、地産素材（農林水産物等）をコスメ・美容製品及び健康・機能性食品の原料として供給していくことを目指した研究を開始。
- ②シーズとニーズのマッチング支援  
地産素材の生産者や大学の研究シーズと会員企業のマッチングによる商品開発プロジェクトの推進。（現在14件進行中）
- ③経済産業省委託事業「新分野進出支援事業」  
JCCでは、2015年度、経済産業省事業の採択を受け、商品開発や国際取引の促進を支援
- ④総務省委託事業「機能連携広域経営推進調査事業」  
唐津市では、2014年度、総務省事業の採択を受け、農林水産物から粉体、エキス、オイルなどの原料サンプルを製造する機器装置を佐賀大学内に整備し、素材の調達、サンプル製造、機能性評価を各主体が分担して行う体制を構築。

## 地域産業等への波及効果

### ◆地域の強み

- ①2013年4月、佐賀県唐津市は、自治体としては我が国で初めて、フランスの世界最大の化粧品産業クラスター・コスメティックバレー（約500社）と協力協定締結。
- ②2013年11月、産学官連携組織「ジャパン・コスメティックセンター（JCC）」が佐賀県に立ち上がり、現在（2015.9.25）、企業130社、7つの大学、佐賀県、唐津市、玄海町等関係機関の会員で運営している。
- ③会長は、オーガニック原料のパイオニア、フランスの化粧品原料・OEM会社代表のアルバン・ミュラー氏が就任。
- ④美容健康事業の創出と集積、国際取引の促進、地産素材の原料活用、製品研究開発など、川上から川下までの水平分業の事業化支援体制が構築されている。
- ⑤本移転における、研究開発の基盤形成及び活動促進、事業化支援プログラムにおいて、研究環境の提供、研究者間の交流、企業と大学との間の有機的連携、国内外のビジネスマッチング（出口戦略）による取引の創出、原材料の素材開発など強力に支援できる体制がすでに整っており、出口戦略の実践的な取り組みが展開できる。
- ⑥本年、JCCでは化粧品産業クラスターであるスペインのビューティー・クラスター・バルセロナ（約50社）、イタリアのポロ・デラ・コスメリ（約50社）と協力協定を締結。国際的な産学連携組織との交流を進めている。

## 地域産業等への波及効果

### ◆会員企業との連携（事例）

- ①アルバンミュラー・インターナショナル・アジアの設立及び（株）マツモト交商（原料商社）との連携
- ②カネダ（株）（原料商社）との連携
- ③岩瀬コスファ（株）（原料商社）との連携
- ④ホシケミカルズ（株）（OEM・原料）との連携
- ⑤（株）東洋新薬（OEM）との連携
- ⑥（株）トレミー（OEM）との連携
- ⑦（株）アルビオン（メーカー）との連携
- ⑧小林製薬（株）（メーカー）との連携
- ⑨アザレプロダクツ（株）（メーカー）との連携
- ⑩（株）ブルーム（検査分析）との連携



# 佐賀県の製薬業

製薬会社・研究施設が充実⇒将来的には連携も！



## 参考①H26年度県内企業別医薬品生産額及びシェア

企業(工場)	主製品	生産額(百万円)	生産額シェア(%)
久光製薬(株)鳥栖工場	貼り薬	71,891	66.40
千寿製薬(株)唐津工場	目薬	19,792	18.28
祐徳薬品工業(株)	貼り薬	4,648	4.29
(株)ミズホメディー 事業所	体外診断薬	3,943	3.64
(株)大石膏盛堂 山浦工場	貼り薬	3,247	3.00
味の素(株)九州工場	原薬	1,882	1.74
牛津製薬(株)砥川工場	飲み薬	1,254	1.16
大塚製薬(株)佐賀工場	原薬	1,089	1.01
佐賀製薬(株)	目薬	302	0.28
日本薬品(株)工場	飲み薬	55	0.05
天恵堂製薬(株)	飲み薬	48	0.04
佐賀酸素工業(株)	医療用ガス	42	0.04
西海製薬(株)	飲み薬	29	0.03
ウサイエン製薬(株)	飲み薬	26	0.02
福岡酸素(株)伊万里支社	医療用ガス	18	0.02
カシマ薬品商事株式会社 現廃止	飲み薬	3	0.00
合計		108,268	100.00

## 【参考②】佐賀県衛生薬業センター(薬品に関すること)

### 1 薬品等に関する業務内容

- 医薬品等の試験、検査
- 医薬品製造販売承認審査
- 製薬メーカー支援(技術相談・指導・研修)
- 調査研究
  - ・無承認無許可医薬品等の検査に関する研究
  - ・危険ドラッグ(指定薬物等)の検査に関する研究
  - ・天然資源の有用成分に関する共同研究

### 2 その他

#### (1) 全国薬事指導協議会に加盟(全16都府県)※九州では本県のみ

- 設置目的:薬事指導及び薬事に関連した試験研究の技術の向上と相互の連絡調整
- 組織:都道府県の設置する薬事に関する試験研究・指導機関
- 事業
  - ・機関相互の連絡、情報交換、協議に関すること
  - ・調査研究及び調査検査等に関すること

#### (2) 学会における主な発表(H26年度)

- 指定薬物等の分析の現状と課題について(H26九州山口薬学大会)
- OLC-Q TOF/MSを用いた危険ドラッグ成分の迅速スクリーニング(H26日本中毒学会九州地方会)

#### (3) 所有する主な分析機器等

- OLC-Q TOF/MS(液体クロマトグラフ四重極飛行時間型質量分析装置)
- OLC-MS/MS(トリプル四重極型液体クロマトグラフ質量分析装置)
- OGC-MS/MS(トリプル四重極型ガスクロマトグラフ質量分析装置)

## 参考③本県における薬剤師・薬局の状況

### 医薬分業推進の結果、薬剤師・薬局が充実

#### 【本県の薬剤師数の状況】

人口10万人当たりの薬剤師数は、全国第9位(174.5人/10万人・総数211人)  
※出典:平成24年医師・歯科医師・薬剤師調査(厚生労働省)

#### 【本県の薬局数の状況】

人口10万人当たりの薬局数は、全国第1位(62.9カ所/10万人・総数528カ所)  
※出典:平成25年度全国衛生行政報告例(厚生労働省)

今後も、少子高齢者の中、薬剤師を確保していく必要がある

「ふるさと佐賀で活躍する薬剤師確保事業」を実施

- 本県出身の薬科大学生に対する奨学金制度(県内薬局に就職すれば返還免除)
  - 薬局薬剤師を対象とした臨床研修(病院実習)制度
- ※事業主体である県薬剤師会への補助金